



No.41

平成28年1月発行

広 報

たかしみず

編集・発行 秋田県高清水園

〒010-1406

秋田県秋田市上北手猿田字苗代沢14番地の1

TEL(018)829-3577 FAX(018)829-3578

HP <http://www.fukinoto.or.jp/takashimizu/>



2016年 本年もよろしくお願いいたします

笑顔でピースサイン

心いきいき新年のスタートです

ごあいさつ



園長
熊谷 公彦

明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。また、平素は当園の事業万般にわたり格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます

希望に満ちた晴れやかな新年を迎える賀詩の中に「気新光照」という四文字賀詩があります。春になると大気が新鮮になり陽射しも明るさを増すとの大変おめでたい熟語です。今年はぜひそんな年になって欲しいと思います。

今年の干支は「申」ですが、猿は好奇心が旺盛なことからチャレンジ精神が強く、いろいろな経験をする動物といわれています。当園も、障害のある人に安心で安全な生活と、日中活動、社会参加、就労等のサ―ビスの提供と拡大に努め、生きがいを持ち、自立した生活ができるよう職員一丸となって様々なことにチャレンジし、飛躍できる一年であるように努めたいと考えております。

今後ともご家族様、関係機関、地域の皆様、ボランティアの皆様とのつながりを大切にしながら、当園の経営、事業を運営してまいりますので、本年もさらなるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のあいさつといたします。



新年のごあいさつ



親の会会長
柏原 伸一

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年は個人的になにかと大変な年で、親の会役員として十分な活動が出来なかったことが反省されます。会員の皆様や園の職員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

昨年は学習会で改めて成年後見制度について学び直しました。暮れには、自民党内において、制度の利用促進をはかる方向での検討がなされたと聞いております。現在の制度になってから約十五年経ちますが、ようやくこうした動きが出てきました。

また、成人施設に移行してからも、利用者の皆様が安定して、充実した生活が送れるように、個別の支援計画策定時にきちんと求めていることは大切です。そのほか、共通して一致する要望などは保護者会としてまとめ上げ、施設側に求めていくというのが基本的なスタンスになります。

「措置」から「契約」になっただけでいぶん経ちますが、介護施設に比べて障害者施設は要望を出しづらい状況が続いているのではないかと感じています。利用者の皆様のことを考え、保護者として何が出来るか、常に考えながら行動していきたいと思っています。

そのための材料を提供していくのが親の会役員の使命だと考えています。少し大仰な話になりましたが、今後も総会をはじめとする行事に積極的に参加していただけるようお願いして、新年のご挨拶とさせていただきます。

いぶき寮

成人棟
活動状況

平成二十七年度は、グループ活動及び外出支援の充実を特に念頭に置いて活動してきました。

まず、園の中庭に新たに畑を作りしました。Aグループ利用者の皆様に土運びの段階から作業を担っていただき、キャベツや人参などを植えました。また、寮の軒先にネットを張り巡らせ、プランターでミニトマトや、きゅうり、ゴーヤも栽培しました。収穫までを通じた作業の中で、皆様に達成感を味わっていただくことができました。

また、体育館と中庭をDグループ活動の拠点として、ウォーキング・マット運動・パズル・手動シュレツダー・ボールペン組みなど、個々の活動を実施しました。

更に、いぶき寮全利用者の外出一覧表を毎月作成し、定期的な外出支援に取り組みました。大森山動物園や秋田空港、一つ森公園、イオンSCなどの社会資源を利用したり、近隣のコンビニへ気軽な買い物に出かけたり、他の福祉サービス事業所の見学に行ったりなど、個々のニーズに応じて多様な外出の形があり、利用者の皆様と共に私たち職員も様々な発見がありました。

その他、自治会主催のボランティア活動（遊学舎の窓ふき）も二回実施しました。今後も、より地域社会と触れ合えるような活動を推し進めていきたいと考えています。

こだま寮



寮の名前が「こだま寮」に変わり、気持ちも新たにスタートした平成二十七年度。

寮生活の充実を図ろうと、花見を皮切りにドライブや買物外出、遊学舎への奉仕作業、心いきいき芸術文化祭への作品出展と見学等を実施しました。二度にわたって出掛けた選挙投票では、選挙担当者の付き添いで投票をしている皆様の姿がみられ、皆様の新たな一面が再び見れたと、昨年度の大規模修繕に続いて嬉しく思いました。

反面、体調面では入院する方はいなかったものの、怪我が続いたり、風邪が長引く、肺炎を起こす等、少しずつ身体状況の変化が見られ、またまた若い皆様ではあります。今後は今まで以上に身体面にも目をむけていかなければならないと感じております。

また、気分転換の場として体育館や十二月にオープンした「ゆつたりルーム」を利用していきます。トランポリンでは女性であっても高いジャンプや背面とび等を見事に決める方もいて驚いています。表情も優しく楽しそうに、見ている職員も嬉しく思っています。

こだま寮では、利用者の皆様とご家族から協力を頂き、十一月末に半数程の方の居室替えを行いました。まだ試行段階で様子を見ているところですが、今のところ、落ち着いて過ごされております。

これからも、皆様からご意見を頂きながら、少しでも楽しく居心地の良い寮づくりを目指していきたいと思っておりますので、どうか宜しくお願いします。



ひだまり寮



児童棟 活動状況

二十七年年度のひだまり寮では日中活動としてリサイクル活動を重点的に取り組んでおります。

空き缶やペットボトルを洗って潰す作業や牛乳パックを洗ってたたむ作業、エコキャップの収集等の作業を行い、現在では大分、日課として作業が定着してきており、毎日時間になると積極的に作業に取り組む姿が見られるようになってきました。十一月にはイオンモール御所野店の回収窓口に五千個のエコキャップを提供することができました。

また、今年度ひだまり寮では利用者の皆様の個別外出にも積極的に取り組んでまいりました。買物や食事、理髪、プール利用など皆様の希望を聞きながら、できるだけ多くの皆様に外出する機会が得られるよう、個別外出を実施しております。今後も利用者の皆様の生活が、より充実したものとなるよう取り組みを進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



よつば寮



今年度から「よつば寮」と名称も新たになり十名の利用者の皆様は、寒さに負けず元気に過ごされています。昨年の大規模修繕により、空調設備も整い暖かく快適な冬を迎えています。

日々の活動では、それぞれの得意分野に分かれてのグループ活動（折り紙、パズル、お絵描き、散歩など）を楽しんでいます。

またDVDやテレビ、ソファなど設備が整った体育館で過ごす時間も楽しみのひとつとなっています。

現在二名の方が栗田養護学校に通学し、一名の方が就労Bとして仕事をされています。

さらに一名の方は、日中活動として地域の作業所に毎日通っています。お二人とも社会人一年生として忘年会やクリスマス会など職場の催しにも出席し、今後の作業へも大いに励みになったようです。

八月の竿灯祭り、九月には近くの遊学舎祭りへ参加し楽しんできました。

園内の行事では、毎年恒例のハロウィンやクリスマス会でお菓子やプレゼントをもらい盛り上がりしました。

これからも、利用者の皆様がその人らしく輝けるよう力を尽くしたいと思っております。



地域支援課 活動状況

現在、六棟のグループホームに、二十九名の方が入居しています。八月には、結、みのり、さくらの三棟のグループホームの引っ越しを行い、新しい環境にも慣れ落ち着いて生活が出来るようになりました。町内の清掃活動や防災訓練にも参加し、地域との交流を深め、近隣住民の協力を得ながらより良い生活を目指しているところです。

自治会の活動も利用者の皆様が主体となり企画し、年度当初の顔合わせ会、九月のにかほ高原への日帰り旅行、十二月の忘年会を実行し楽しみました。

地域社会で生活するにあたって、悩みやストレスが生じることもあり、利用者の皆様の声に耳を傾け、個々人に合った支援を提供しながら、安心して安全な生活が営めるよう努めていきます。



地域貢献事業

ボウリング大会!



十月十一日と二十五日に、秋田市ロックンボウルを会場に「ボウリング大会」を開催しました。

秋田市内の各グループホームをバックアップする事業所に、利用者の皆様の参加の呼びかけを行い、六事業所十五ホームより、利用者の皆様四十九名、引率者八名の参加がありました。更に延べ八名のボランティアの皆さんにも参加いただき、グループホーム利用者の皆様のみならず、地域の方々と共に交流を存分に楽しんだ二日間となりました。

大いに盛り上がった大会の様子は魁新聞にも掲載され、ご父兄からも喜びいただき大反響でした。

大会後のアンケートの結果では、次回の開催を希望する嬉しい声も沢山いただき、今後の地域貢献への第一歩となりました。



ゆったりルームで楽しんでいます

十二月からゆったりルームを設置しています。この部屋は感覚刺激（光、音、感触など）を提供し、それらを楽しみながらリラクゼーションできる空間です。「スノーズレン」としてヨーロッパ等で広く知られている環境整備を高清水園でも取り入れることになりました。

ゆったりルームは、できるだけ見て、触れて、聴いて分かりやすく、楽しみやすいような工夫を施した部屋です。当園では柔らかなクッション椅子やウォーターベッド（水で膨らませたベッド）、泡を視覚的に楽しむ道具、音響設備、プロジェクターによって不規則な模様を写す、柔らかいマットなどを取り入れました。実際に触れてみることで、リラクゼーションできる環境を提供しています。

設置してさっそく多くの利用者の皆様に利用してもらっています。ベッドに寝ころがり、水のユラユラとした感覚を見て、実際に身体で感じて楽しんだり、泡の動きを見つめたり、足でマットの感覚を楽しんだり、みなさん自分なりに楽しんでいる様子でした。利用者の皆様によつては、ゆっくりしているときに自然と笑顔がこぼれる場面が何度もありました。

ゆったりルームはまだ当園で取り入れたばかりです。これからの改良をすすめて、利用者の皆様が落ち着けるような環境づくりを心掛けたいと思います。



ボランティア講座を開講しました

八月二十一日、

十一月十五日の二回にわたり、ボランティア受け入れ

拡大の為、「ボランティア講座」を開講しました。秋田市内在住の方や、県内外の大学生の方に参加して頂きました。和やかな



雰囲気の下、園内見学や講義「知的障がいのある方への理解と関わり」をはじめ、意見交換会を通じて大変有意義な時間を過ごすことができました。高清水園でボランティアをしたいという方に、分かりやすく利用者様の特性や、関わり方の基本を学んでいただく講座になりました。

ボランティアというかたちで、地域住民の方々と、近隣の大学生の力をお借りすることで、今までよりも個別に利用者様の外出支援などを実施し、活発な生活ができるようになればと考えております。次回ボランティア講座は未定ですが、日程が決まり次第ホームページに情報を掲載いたします。また、高清水園では日頃からボランティアの募集しております。

清掃など、直接利用者様と関わらない活動でも結構ですので、地域の方と利用者の皆様との交流の場となればと思っております。是非、気軽にご連絡ください。

多くの皆様のご参加とご協力をお待ちしております。

【利用者・職員の動向】

①入退所状況 平成二十七年四月～十二月

・退所 いぶき寮 柳原満さん
・退所 グループホームみのり 高山浩幸さん
・退所 グループホームさくら 打矢清美さん

②職員の動向

●退職 平成二十七年四月～十二月

・支援課 木村真莉奈
・管理課 笹原孝子
・支援課 傘木かおり
・管理課 福田ひろみ
・支援課 山口和子
・地域支援課 工藤利夏子
・支援課 石塚雅健
・管理課 武田留美
・管理課 菅野あゆみ
・管理課 鈴木美加
・支援課 黒沢明子
・管理課 高橋とよ子
・地域支援課(世話) 藤原エツ子

●採用 平成二十七年十月～十二月

・地域支援課 小松田祥子
・管理課 佐藤吟子
・管理課 佐藤きくゑ
・支援課 工藤和夫
・支援課 天野聖弥
・管理課 川村忍
・支援課 渡部修
・地域支援課(世話) 手塚悦子
・管理課 安宅保子
・支援課 川邊自
・支援課 菊地瞳

◆お知らせ◆

親の会事務員・佐々木文子さんが平成二十七年八月三十一日で退職され、新しく佐藤千保子さんが採用になりました。今後ともよろしくお願いいたします。

編集後記

インフルエンザや感染性胃腸炎等、感染症が流行する季節となりました。園内でも利用者の皆様が健康で暮らしているように予防に努めてまいります。ご家族の皆様もご自愛ください。

さて、来年度は高清水園が上北手地区に移転して二十年目を迎えます。これからの地域の福祉の拠点として信頼される場所であり続けるよう邁進します。

今年度は成年後見制度の研修やボランティア講座の開催、ゆったりルームの設置等、新たな取り組みを充実させることができました。さらに、他事業所のグループホーム利用者の皆様も参加していただきボウリング大会を実施し、新たな地域との交流が生まれました。

これもひとえに皆様のご理解、ご協力があればこそだと思っております。今後とも利用されている皆様が笑顔で輝いた生活を送ることが出来るよう、職員一同、努力して参りますので、よろしくお願いいたします。